

研究課題名：外来化学療法室においてリツキシマブ投与時間短縮レジメンを導入した悪性リンパ腫患者の実態調査

対象患者：当院外来化学療法室においてリツキシマブ投与時間短縮レジメンを導入した悪性リンパ腫の患者さん

研究期間：本学部倫理委員会承認日～ 2022 年 3 月 31 日

研究の背景：

悪性リンパ腫の治療薬の一つであるリツキシマブは、投与時に頻発してあらわれる注入時反応を軽減するため、前投薬として抗アレルギー剤等の投与が義務付けられ、また、注入速度に関連して血圧下降等の症状が発現するため、注入速度に注意する必要がある薬剤です。

2020年12月より2回目以降の投与において、一定の条件を満たした場合、当該注入速度の選択が可能になりそれまでの投与時間に比して約半分に短縮することが認められました。外来化学療法において薬剤の投与時間を短縮することは、患者の拘束時間短縮による利便性や生活の質の向上、業務の効率化、医療スタッフの勤務時間短縮などにつながる可能性があります。現在は時間短縮への移行期間であるため、施行した患者さんの副作用の出現状況や心身の状態の変化を把握し、医療者側も適切な対応を検討する必要があると考えます。

本研究の目的：

リツキシマブ投与時間短縮レジメンを導入した患者の有害事象の出現状況および心身の状態の変化を明らかにし、今後の患者マネジメントにおけるより適切な対応方法を検討することです。

研究の方法：

電子診療録および外来化学療法室内の投与記録用紙から患者年齢、性別、採血結果、画像所見、パフォーマンスステータス、治療日時、投与量、副作用、患者さんの言動について後方視的に情報を収集し、治療の安全性と患者の心理状態を解析します。個人情報には削除された状態でデータを取り扱いますので患者さんの個人情報は保護されます。

また本研究への参加を拒否することは自由です。その場合は以下の連絡先までお願いします。

問い合わせ先：弘前大学大学院医学研究科消化器血液内科学講座
准教授 高畑 武功
電話：0172-39-5053 FAX：0172-37-5946